

「太平山麓九条の会」だより



事務局：須黒法律会計事務所 〒328-0027 栃木市今泉町 2-4-18 FAX0282-22-3757
電話連絡先 0282-22-7079(増田)
Eメール oochirasanroku9jo@yahoo.co.jp HP：太平山麓九条の会で検索

196号
2023年9月22日発行

平和っていいなあ・歌うって楽しい！



8月27日(日) 午後2時からとちぎ岩下の新生姜ホール(栃木文化会館・大会議室) で、ピアニストの田中純子さんをお迎えして「平和をうたごえにのせて～みんなで歌いましょう～」を開催しました。

暑い中でしたが、60名ほどの参加者がありました。司会の大森さん、歌のリードの早乙女さんの進行で、会は進められました。



「第一部」では、「夏の思い出・この広い野原いっぱい・長崎の鐘 青い空は・涙そうそう・四季のうた・野に咲く花のように・手のひらを太陽に」などの歌をみんなで歌いました。



有志の方々によるコーラス、ウクライナ民謡「キエフ鳥の歌」が歌われました。これは心にしみるようなきれいな曲で、第三部でアンコールのリクエストが出るほど好評でした。



第二部では、田中純子さんの祖父が、杉原千畝に協力したというエピソードを話されてから「ひまわり・戦場のピアニスト・イマジン」を演奏してくれました。



久しぶりに大きな声を出して歌い、心もはればれ、うきうき、楽しかったです。

第三部では、皆さんからのリクエストに応え、みんなで歌いました。参加者の中から飛び入りで前に出てきてくれる方や、素敵な声で歌をリードしてくれる方などいて、会場は盛り上がりました。時には立ち上がり、時には手拍子を加えて、好きな歌を精一杯歌い、平和のありがたさをかみしめることができたひと時でした。



皆さんと一緒にいろいろな歌を歌えてとても楽しいひと時でした。田中先生のピアノ演奏も素晴らしかったです。また、歌の伴奏も次々に弾かれ才能豊かさに敬服です。この会がこれからも発展されることを心から願っています。今日は参加できて本当に良かったです。



戦争は絶対に二度と起こしてはならない。今の平和の時代を大切に、戦争体験者は切に願います。

皆さんが一つになりました
知らない人とも前からの知
り合いのように楽しむこと
ができるこれが最高です

- ◆スタンディング 10月9日(月)市役所前 10月19日(木)とちぎコープ前 両日とも16時から
- ◆スタッフ会議 10月12日(木)4階 10月27日(金)2階 くらら市民活動室 13時30分から

力が全てを支配する時代・私たちは未来を諦めない

悲惨な戦争から78年、戦争放棄を謳った憲法九条も今や満身創痍、平和憲法も風前の灯火となっている。時はすでに戦前である。

日本は現在、台湾有事を想定した対中国の日米共同作戦計画の策定に踏み出している。2016年からは、種子島、奄美大島など南西諸島への地対艦ミサイル部隊の配備が進められ、建設ラッシュは、北海道も含む日本全土に及ぼうとしている。更に問題なのは、日本が独自に中国本土を射程に収める中距離ミサイルを持つようとしていることである。すでに川崎重工が落札して、開発中であるという。（「日米同盟・最後のリスク」創元社）

ことさら台湾有事を仰いで、アメリカの意のままに防衛費の増額を狙う政府。戦争への準備は、これだけではない。徴兵制のためと思われる18歳以上男子の名簿を、すでに7割の自治体が自衛隊に提出しているのである。

NHKの「100分で名著 ナオミクラインのショック・ドクトリン」によると、1990年代から一気に加速し始めたアメリカ発のグローバル資本主義、途上国や多くの市民に犠牲を強いる歪んだ形で拡大していった新自由主義。それは自由貿易の名の下に、「民営化」「規制緩和」「社会保障支出削減」の三大ドクトリン(政策)によって一握りの先進国と銀行家、多国籍企業群だけが利益を得る、歪んだ「経済モデル」であった。日本においては、1980年代、中曽根政権によって国鉄など三公社が民営化、2000年に入っては小泉政権が郵政の民営化、構造改革による規制緩和など新自由主義政策を強力で押し進めていく。そこに起こったのが東日本大震災であった。惨事を狙って強硬に新自由主義を推し進めるのがショック・ドクトリンである。そのため、貧富の格差は広がり、非正規労働者の増加、家庭も持てない若者たち、社会保障の減額と、30年に渡る低成長時代を迎え、日本は住みにくい未来の見えない社会を生み出してしまったのである。

一方、1980年代には、「女子差別撤廃条例」を批准、男女雇用機会均等法も制定され、選択的夫婦別姓を求める声が高まったにもかかわらず、いまだに「ジェンダーギャップ指数146か国中125位」という日本。女性の自立にブレーキをかけたのが、この頃から急激に拡大した旧統一教会を始めとする「新宗教」という右派の宗教団体だった。男尊女卑、家父長制擁護を掲げたこれらの組織で見過ごせないのが政治への介入である。ある団体は日本全国の中小企業6000社余りから集めた資金を、支持する政党や政治家に物心両面から支援、政策にも大きく反映させている。夫たちは、会社を通して、主婦たちは「朝起き会」なる組織から、夫に従い家庭を守るといった伝統的な価値観が各家庭に浸透し、社会は一挙に右傾化していった。（「女性の自立をはばむもの」花伝社）

平和憲法のもと国民が幸せに生きるはずだった日本は、日米安保条約とそれに伴う地位協定によって自らの主権を捨ててしまう。今や国家予算のみならず、日本の空も海もアメリカの支配のもとに従属し、戦争も辞さない国になってしまった。だが、私たちは未来を諦めない。主権を取り戻し、光り輝く平和憲法の道を、今一度力強く歩みたいと願う。

大原瑛里子(仮名) 記



◆ 県民ネット大行動 ◆

・10月21日(土)午後1時～午後3時、二荒山神社前交差点にてスタンディング。

・学習講演会

11月11日(土)午後1時～午後4時、栃木県弁護士会館4階ホール、

講師は外部からを予定。岸田首相が来年9月までの任期中にと意気込んでいる憲法「改正」問題の中心的論点について学習する。

